

曲淵ダムの今昔



第1期拡張工事直後の曲淵ダム 昭和9年

曲淵ダムは、市の西部を貫流する室見川の上流約18km、標高概ね208mの大字曲淵に建設された水道専用の重力式ダムで、市が築造した最初のダムです。

大正12年に竣工し、1日あたりの給水能力1万5千立方メートルで、3万5千人を対象に給水を開始しました。

水源地の選定に際しては、那珂川からポンプアップする案や他のダム候補地も考えられましたが、将来にわたって安定した水質、水量が期待できること、自然流下方式のため運転経費が安いことなどから、曲淵が水源地として決定されました。

構造的な特徴は、堤体の表面（上下流側）に御影石の石垣を積上げ型枠として利用し、内部には現地採取の粗石を投入してコンクリートを充填した重力式粗石コンクリート造りとなっていることです。セメント等資材の運搬は効率化を図るため市内よりレールを布設し馬車によって運搬したそうです。

湖底の場所には大山祇神社がありましたが、ダム建設に伴い湖底に水没してしまうため、すぐそばの小高い山の上にある曲淵城址に移築されました。



水源祭★ 昭和29年



水源祭 現在

脊振山の今昔



航空自衛隊脊振分屯基地レーダーサイト 昭和46年



登山者で賑わう脊振山★ 昭和39年

